

聖籠町の統一的な基準による財務書類（令和2年度 一般会計等）概要

令和2年度財政運営は、堅調な財政運営を行っている。

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において町の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）		
1 固定資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 町営住宅、地区集会所など	111億9,353万円	1 固定負債 (1) 地方債 21億960万円	
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	30億8,828万円	(2) 退職手当引当金 8億2,280万円	
	(3) 物品、ソフトウェアなど	1億7,884万円	(3) その他の固定負債 0万円	
	(4) 投資その他の資産	41億8,988万円	2 流動負債 (1) 賞与等引当金 8,168万円	
			(2) その他の流動負債 3億8,506万円	
			負債合計 33億9,913万円	
2 流動資産	(1) 現金預金	5億7,163万円	純資産の部（現在までの世代が負担した金額）	
	(2) 基金、未収金など	6億1,427万円	純資産合計	164億3,728万円
資産合計		198億3,642万円	負債及び純資産合計	198億3,642万円

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、町がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	6億5,014万円
本年度資金収支額	△1億2,858万円
1 業務活動収支 税金、国県等補助金、人件費など	4億8,756万円
2 投資活動収支 公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△4億3,069万円
3 財務活動収支 地方債等発行、償還など	△1億8,545万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）	5,008万円
本年度末資金残高（来年度繰越金）	5億7,163万円

③ 純資産変動計算書

町の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	162億841万円
本年度変動高	2億2,887万円
△純行政コスト	△80億2,017万円
財源 (町税、地方交付税、 国・県補助金)	82億4,893万円
資産形成への充当	11万円
その他	0万円
本年度末純資産残高	164億3,728万円

町の資産と負債の状況

- ① 住民1人当たりの資産と負債残高（令和3年3月31日現在人口 14,173人）
 資産 = 140万円 負債 = 24万円
- ② 純資産比率（今までの世代で負担済分）…… 82.9%
 社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】
- ③ 資産老朽化比率（資産の老朽割合）…… 78.8%
 償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】
 ※ 令和2年度末現在：償却資産取得価額等： 483億9,395万円 減価償却累計額： 381億1,840万円
- ④ 負債比率（純資産に対する負債の割合）…… 20.7%
 この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

町の令和2年度財政運営の総括

- ① 業務活動収支 4億8,756万円 ⇒ 堅調な財政運営
 ② 投資活動収支 △4億3,069万円（基金積立、資産形成）
 ③ 財務活動収支 △1億8,545万円（将来世代の負担）
 ①～③の合計である令和2年度の資金収支は △1億2,858万円
 前年度資金残高との合計は 5億7,163万円

② 行政コスト計算書

町の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	84億3,932万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	15億682万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	30億8,786万円
その他の業務費用 支払利息など	7,931万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	37億6,533万円
経常収益	4億1,717万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	80億2,215万円
臨時損失 災害復旧費など	0万円
臨時利益 資産売却益など	198万円
純行政コスト (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	80億2,017万円

● 4つの財務書類の公表について

町民の皆さんに町の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。

● 財務書類作成に当たって（効果）

今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。

● 財政健全化判断比率（令和2年度）

	聖籠町	早期健全化基準
実質赤字比率 (%)	—	15.00
連結実質赤字比率 (%)	—	20.00
実質公債費比率 (%)	9.4	25.00
将来負担比率 (%)	24.0	350.00

聖籠町の統一的な基準による財務書類（令和2年度 全体会計）概要

令和2年度財政運営は、堅調な財政運営を行っている。

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において町の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）		
1 固定資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 町営住宅、地区集会所など	113億1,693万円	1 固定負債 (1) 地方債 73億3,881万円	
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	157億6,984万円	(2) 退職手当引当金 8億7,058万円	
	(3) 物品、ソフトウェアなど	18億1,406万円	(3) その他の固定負債 63億8,135万円	
	(4) 投資その他の資産	43億4,332万円	2 流動負債 (1) 賞与等引当金 1億1,925万円	
			(2) その他の流動負債 8億8,046万円	
			負債合計 155億9,044万円	
2 流動資産	(1) 現金預金	15億708万円	純資産の部（現在までの世代が負担した金額）	
	(2) 基金、未収金など	7億706万円	純資産合計	198億6,785万円
資産合計		354億5,829万円	負債及び純資産合計 354億5,829万円	

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、町がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	15億6,950万円
本年度資金収支額	△1億1,449万円
1 業務活動収支 税金、国県等補助金、人件費など	8億5,722万円
2 投資活動収支 公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△5億102万円
3 財務活動収支 地方債等発行、償還など	△4億7,069万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）	5,208万円
本年度末資金残高（来年度繰越金）	15億708万円

③ 純資産変動計算書

町の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	195億8,431万円
本年度変動高	2億8,354万円
△純行政コスト	△106億6,984万円
財源 (町税、地方交付税、 国・県補助金)	109億1,794万円
資産形成への充当	11万円
その他	3,533万円
本年度末純資産残高	198億6,785万円

町の資産と負債の状況

① 住民1人当たりの資産と負債残高（令和3年3月31日現在人口 14,173人）

資産 = 250万円 負債 = 110万円

② 純資産比率（今までの世代で負担済分）…… 56.0%

社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】

③ 資産老朽化比率（資産の老朽割合）……… 65.5%

償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】

※ 令和2年度末現在：償却資産取得価額等： 685億1,656万円 減価償却累計額： 449億882万円

④ 負債比率（純資産に対する負債の割合）……… 78.5%

この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

町の令和2年度財政運営の総括

① 業務活動収支 8億5,722万円 ⇒ 堅調な財政運営

② 投資活動収支 △5億102万円（基金積立、資産形成）

③ 財務活動収支 △4億7,069万円（将来世代の負担）

①～③の合計である令和2年度の資金収支は △1億1,449万円

前年度資金残高との合計は 15億708万円

② 行政コスト計算書

町の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	116億6,254万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	16億6,616万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	38億6,045万円
その他の業務費用 支払利息など	1億9,926万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	59億3,668万円
経常収益	9億8,362万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	106億7,892万円
臨時損失 災害復旧費など	77万円
臨時利益 資産売却益など	985万円
純行政コスト (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	106億6,984万円

● 4つの財務書類の公表について

町民の皆さんに町の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。

● 財務書類作成に当たって（効果）

今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。

● 財政健全化判断比率（令和2年度）

	聖籠町	早期健全化基準
実質赤字比率 (%)	—	15.00
連結実質赤字比率 (%)	—	20.00
実質公債費比率 (%)	9.4	25.00
将来負担比率 (%)	24.0	350.00

※表中、表示単位未満は四捨五入のため合計が一致しない場合があります。

聖籠町の統一的な基準による財務書類（令和2年度 連結会計）概要

令和2年度財政運営は、堅調な財政運営を行っている。

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において町の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）	
1 固定資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 町営住宅、地区集会所など	124億1,181万円	1 固定負債 (1) 地方債 78億9,201万円 (2) 退職手当引当金 10億2,852万円 (3) その他の固定負債 64億6,385万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	162億6,238万円	2 流動負債 (1) 賞与等引当金 1億3,164万円 (2) その他の流動負債 9億8,396万円 負債合計 164億9,997万円
	(3) 物品、ソフトウェアなど	19億9,882万円	
	(4) 投資その他の資産	42億9,726万円	
2 流動資産	(1) 現金預金	19億7,928万円	純資産の部（現在までの世代が負担した金額）
	(2) 基金、未収金など	7億5,156万円	純資産合計 212億115万円
資産合計		377億113万円	負債及び純資産合計 377億113万円

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、町がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	19億5,615万円
本年度資金収支額	△3,375万円
1 業務活動収支 税金、国県等補助金、人件費など	9億9,377万円
2 投資活動収支 公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△5億7,952万円
3 財務活動収支 地方債等発行、償還など	△4億4,800万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）	5,303万円
本年度末資金残高（来年度繰越金）	19億7,928万円

③ 純資産変動計算書

町の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	207億5,081万円
本年度変動高	4億5,034万円
△純行政コスト	△117億3,509万円
財源 (町税、地方交付税、 国・県補助金)	120億2,141万円
資産形成への充当	1億9,243万円
その他	7,159万円
本年度末純資産残高	212億115万円

町の資産と負債の状況

- 住民1人当たりの資産と負債残高**（令和3年3月31日現在人口 14,173人）
資産 = 266万円 負債 = 116万円
- 純資産比率（今までの世代で負担済分）** …… **56.2%**
社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】
- 資産老朽化比率（資産の老朽割合）** …… **66.0%**
償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】
※ 令和2年度末現在：償却資産取得価額等： 737億6,945万円 減価償却累計額： 486億8,408万円
- 負債比率（純資産に対する負債の割合）** …… **77.8%**
この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

町の令和2年度財政運営の総括

- 業務活動収支** 9億9,377万円 ⇒ 堅調な財政運営
 - 投資活動収支** △5億7,952万円（基金積立、資産形成）
 - 財務活動収支** △4億4,800万円（将来世代の負担）
- ①～③の合計である令和2年度の資金収支は △3,375万円
- 前年度資金残高との合計は 19億7,928万円

② 行政コスト計算書

町の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	132億4,116万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	20億3,088万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	44億2,602万円
その他の業務費用 支払利息など	2億2,682万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	65億5,744万円
経常収益	14億9,705万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	117億4,411万円
臨時損失 災害復旧費など	809万円
臨時利益 資産売却益など	1,712万円
純行政コスト (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	117億3,509万円

● 4つの財務書類の公表について

町民の皆さんに町の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。

● 財務書類作成に当たって（効果）

今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。

● 財政健全化判断比率（令和2年度）

	聖籠町	早期健全化基準
実質赤字比率 (%)	—	15.00
連結実質赤字比率 (%)	—	20.00
実質公債費比率 (%)	9.4	25.00
将来負担比率 (%)	24.0	350.00

※表中、表示単位未満は四捨五入のため合計が一致しない場合があります。